

診療所における鼻アレルギー治療

——手術療法について——



耳鼻咽喉科・アレルギー科
さいとうクリニック

齋藤正治

診療所で可能なアレルギー性鼻炎の手術

■ 下甲介粘膜焼灼術

- ・レーザー（CO2、KTP、YAG）
- ・高周波（アルゴンプラズマ療法、粘膜下高周波凝固術）
- ・ラジオ波（コブレーション）
- ・超音波（ハーモニックスカルペル）

■ 化学的凝固法

- ・トリクロール酢酸塗布

■ 下甲介粘膜減量術

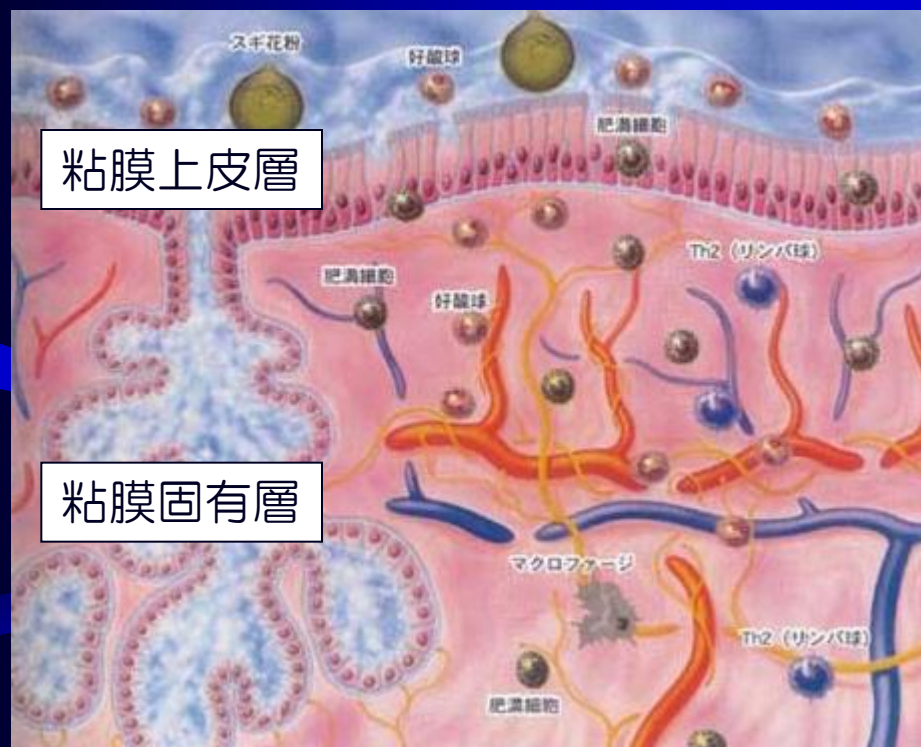
- ・マイクロデブリッター



■ 後鼻神経凍結凝固法（クライオサージェリー）

- ・凍結凝固装置

下甲介粘膜焼灼術の作用機序



粘膜の重層扁平上皮化生
↓
抗原の上皮内への侵入抑制

浮腫状の間質組織が癒痕化

アレルギー細胞の
集族と遊走抑制

間質浮腫の予防

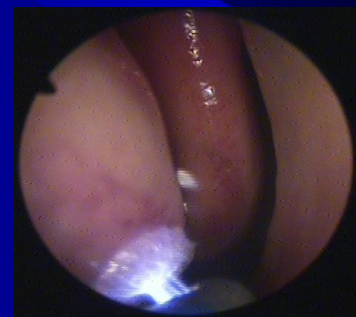
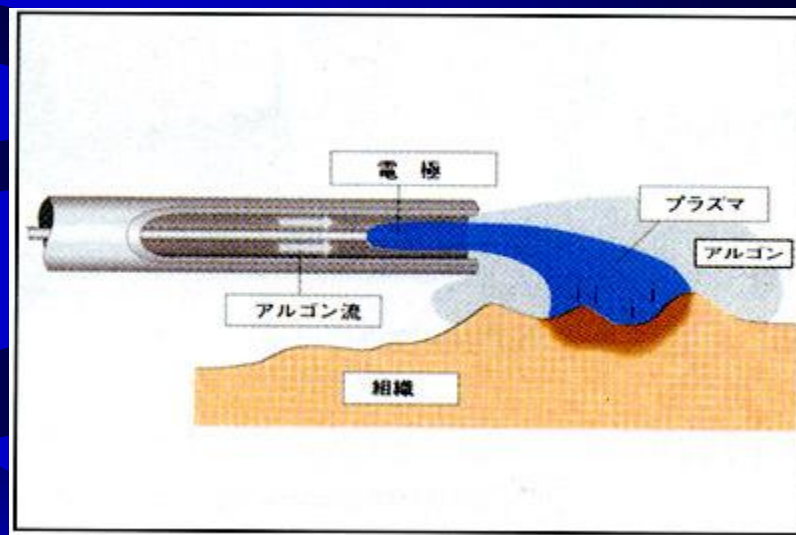
↓
鼻閉の改善

鼻腺の減少
知覚神経終末の変性

↓
鼻汁分泌の減少

アルゴンプラズマ療法

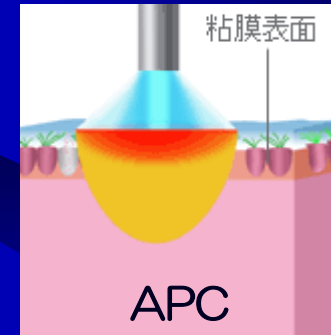
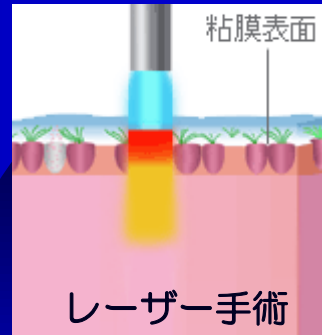
アルゴンガスをプラズマ化し、そこへ高周波電流を誘導することで組織の焼灼凝固を行う方法。



【ERBE社製 Argon Plasma Coagulator】
(APC300 アルゴンガス送気装置、ICC200 高周波電源装置)

アルゴンプラズマの利点

- ①面で焼灼ができるため、短時間で手術操作ができる。
(両鼻で5～6分)

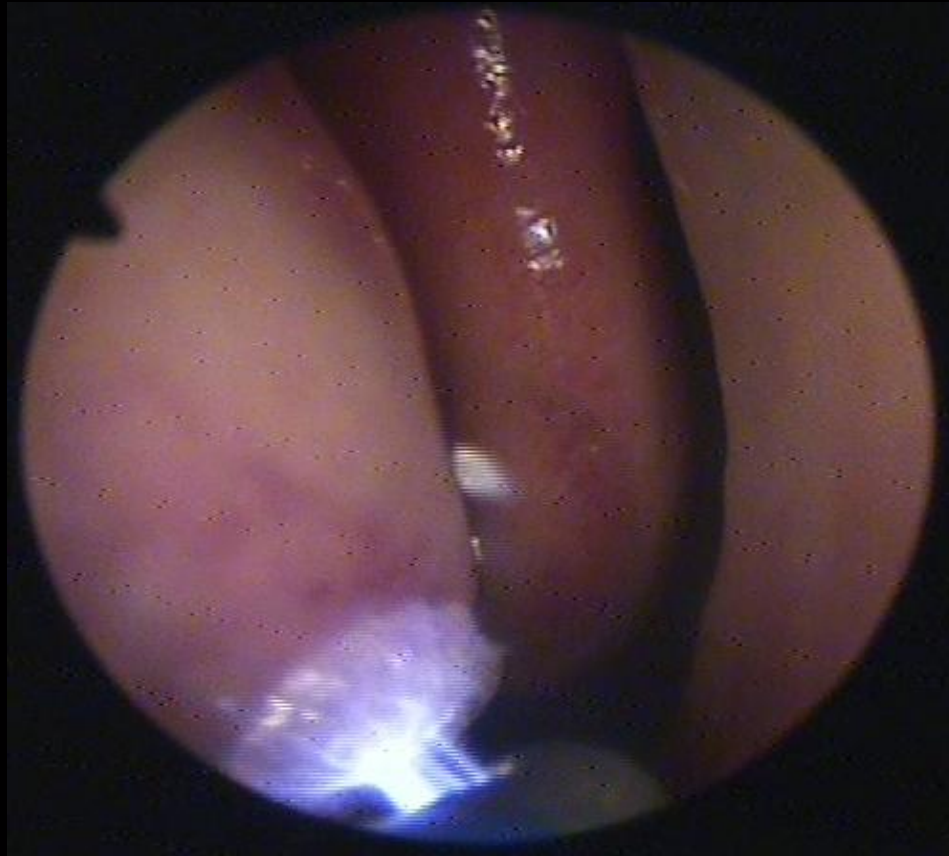


- ②焼灼がある程度進むと、電気抵抗により、それ以上焼灼が進まず、過度に粘膜深部に焼灼が進まずに安全。
- ③レーザーの様な蒸散ではないため、煙が出ず、眼球保護が不要。
- ④プローブが直径2.3mmと非常に細く、手術操作が容易。

先端に90度側方へアルゴンガスが噴出する穴が開いている

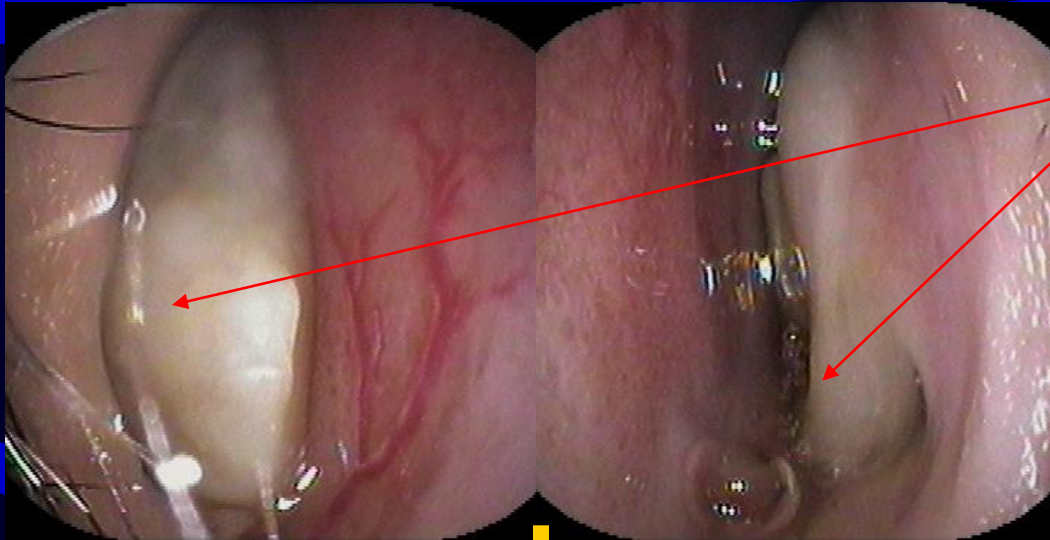


アルゴンプラズマ療法



術中VTR

【術後1週間】



フィブリン様物質で鼻腔は充満

【摘出したフィブリン様物質】



【フィブリン様物質除去直後】





アルゴンプラズマ療法の 満足度調査結果

検討対象患者背景

■症例数：263例（平成20年6月～平成23年10月）

男性：165例

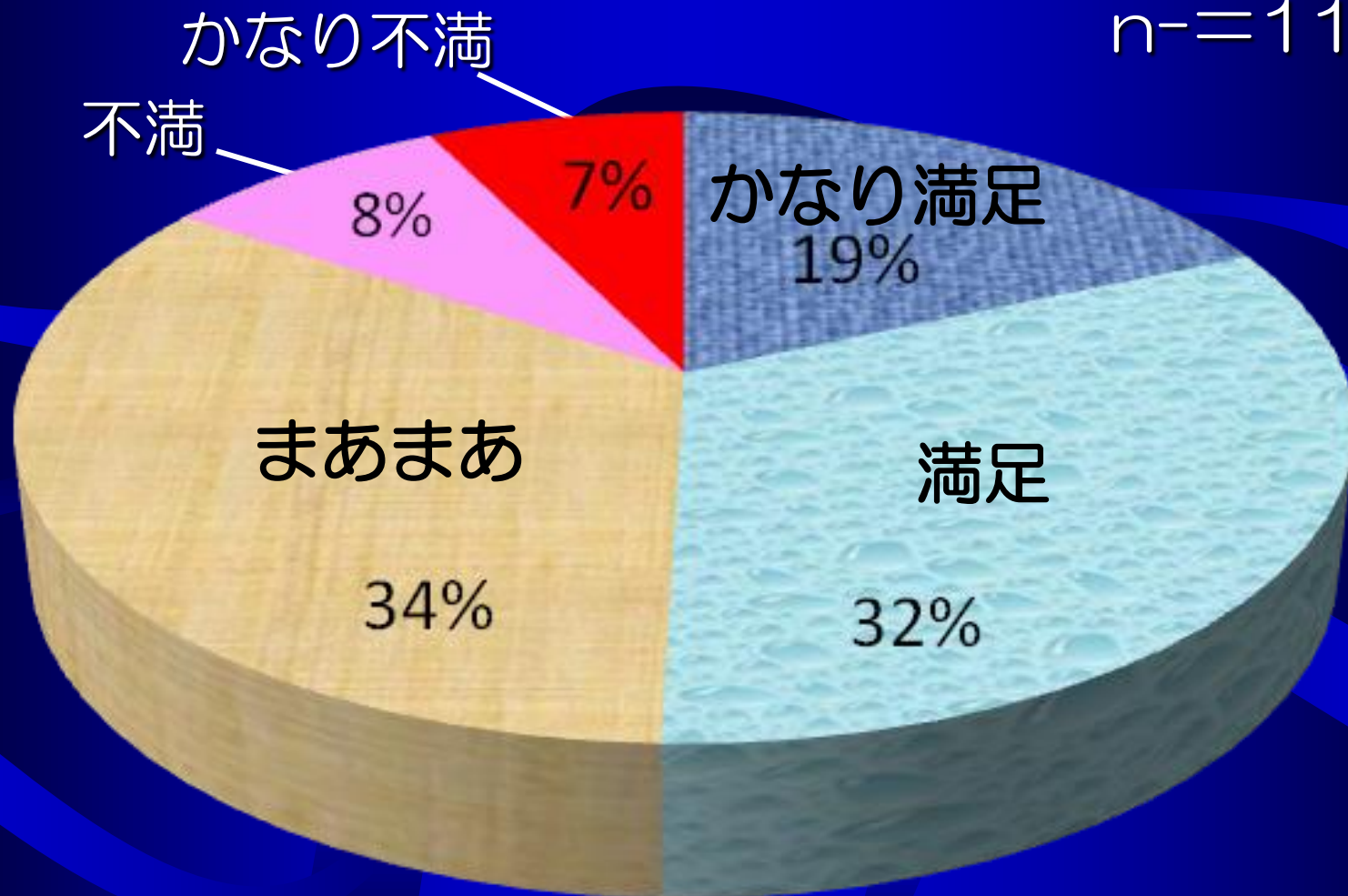
女性：98例

平均年齢：29.9±13.9歳）

通年性、季節性のアレルギー性鼻炎患者のうち、
鼻閉を主訴とする患者を対象とした。

満足度は？

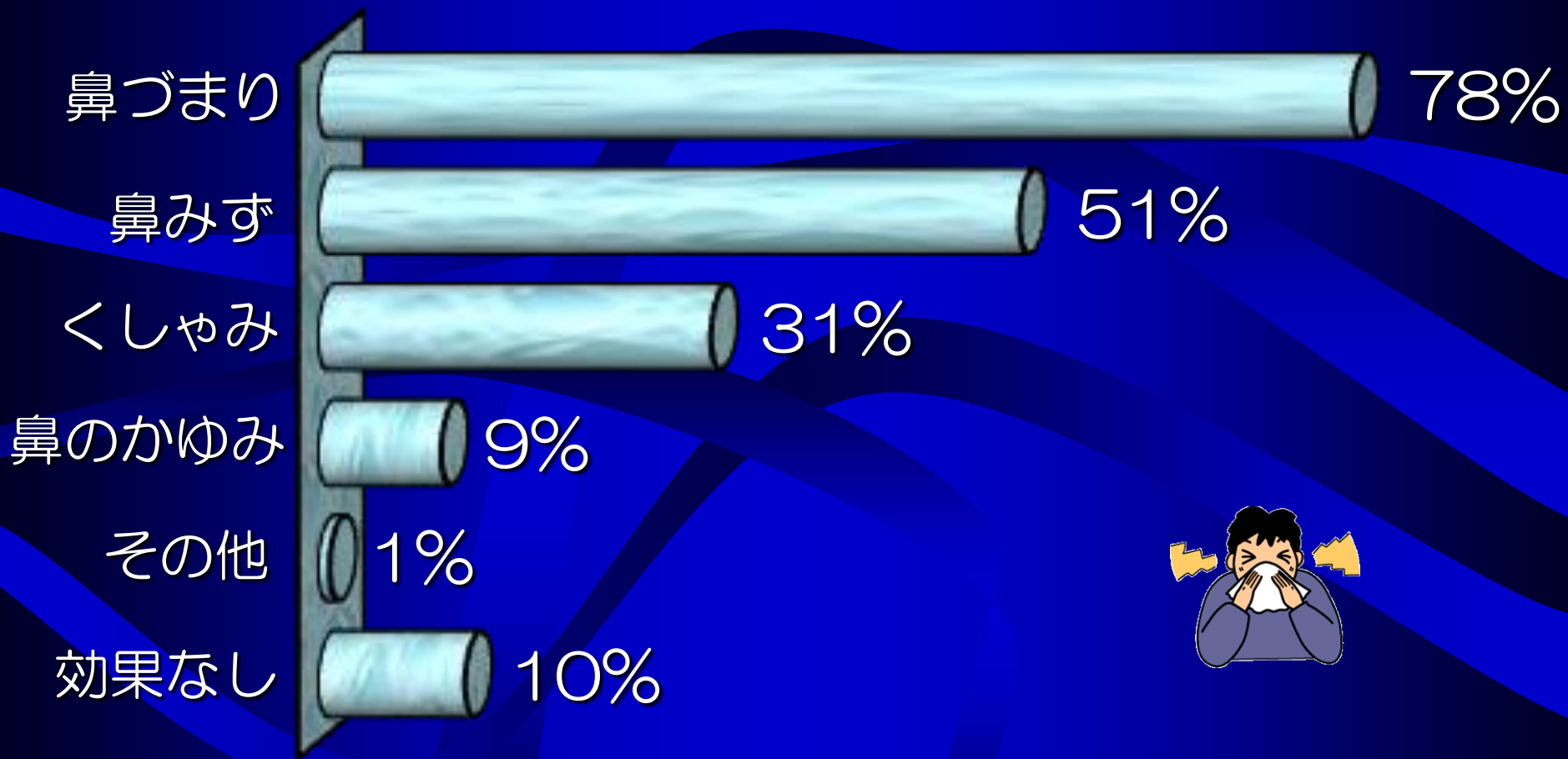
n=119



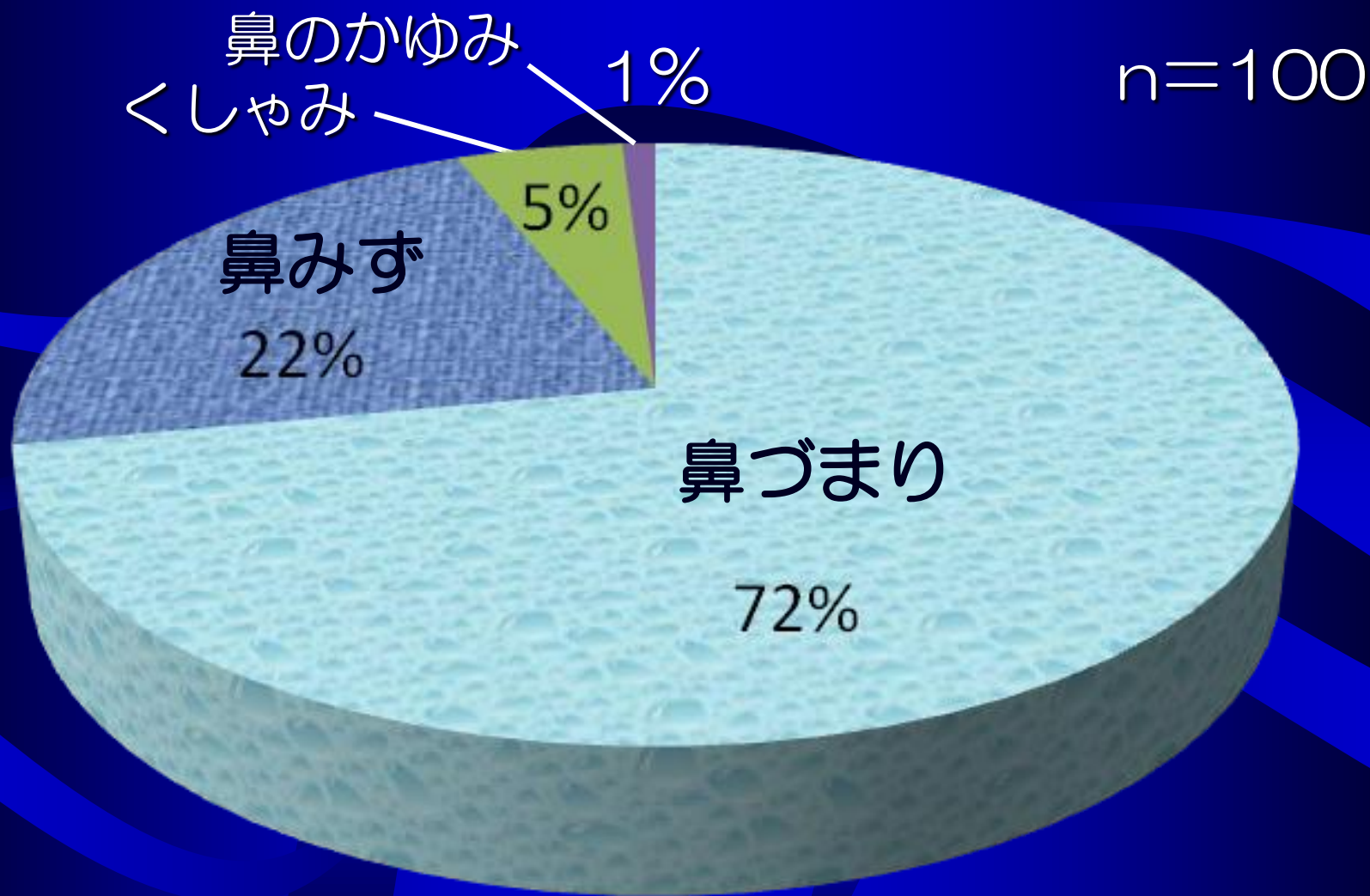
改善した症状は？

n=118

※重複回答あり



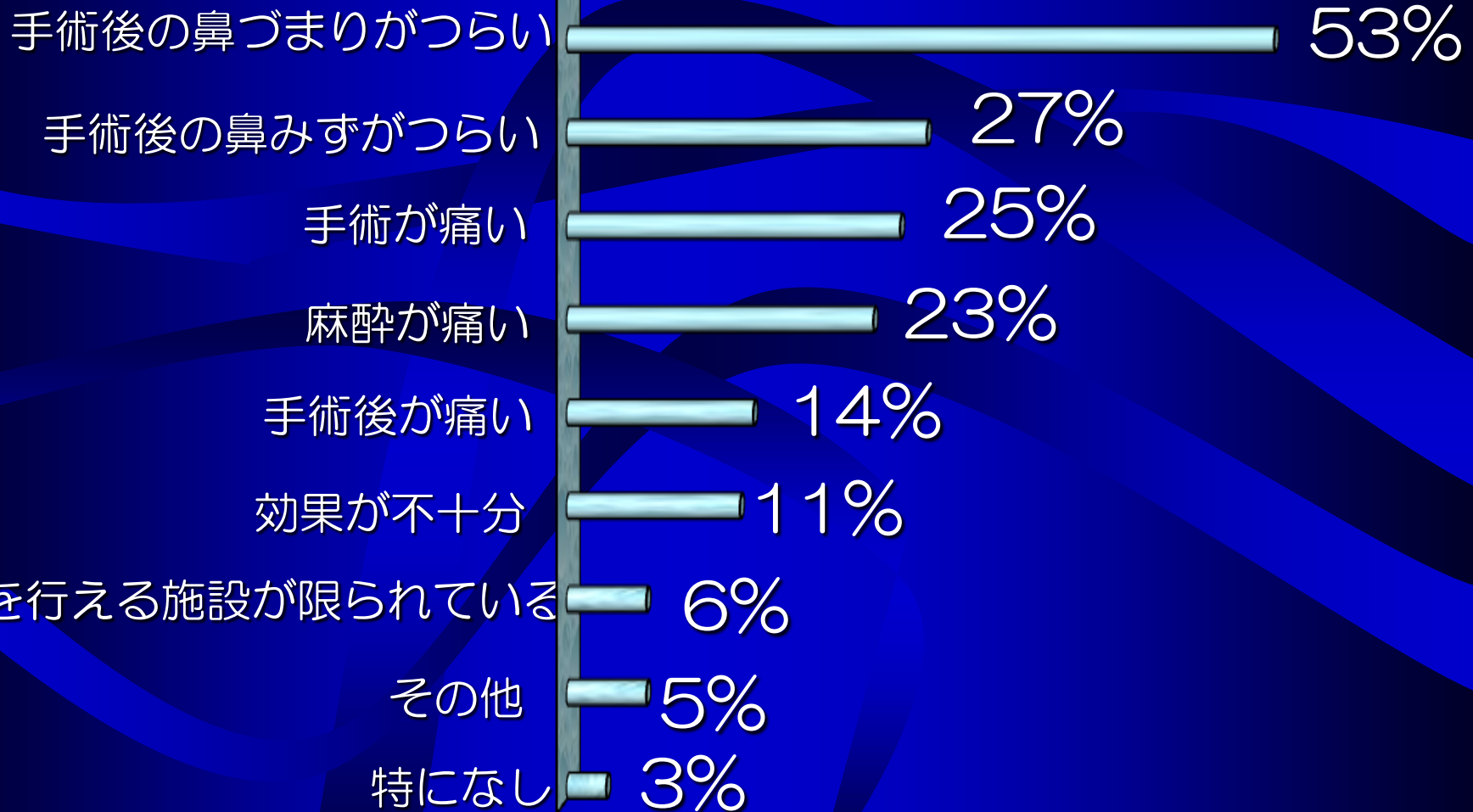
一番改善した症状は？



アルゴンプラズマ療法に対する不満は？

n=113

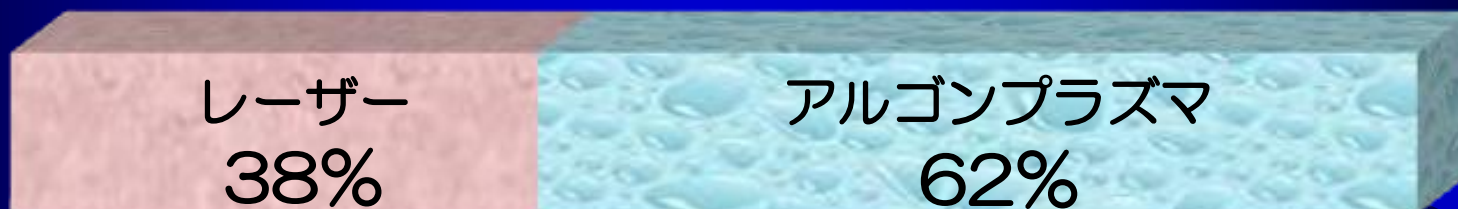
※重複回答あり



レーザー（CO₂）治療とアルゴンプラズマ療法と比較して

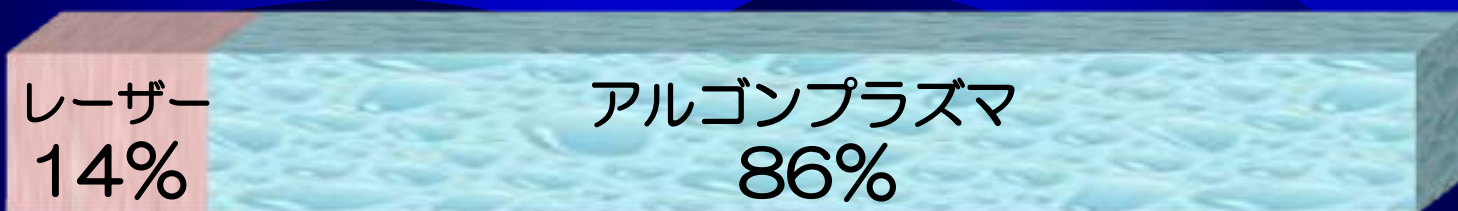
■どちらが楽でしたか？

n=8



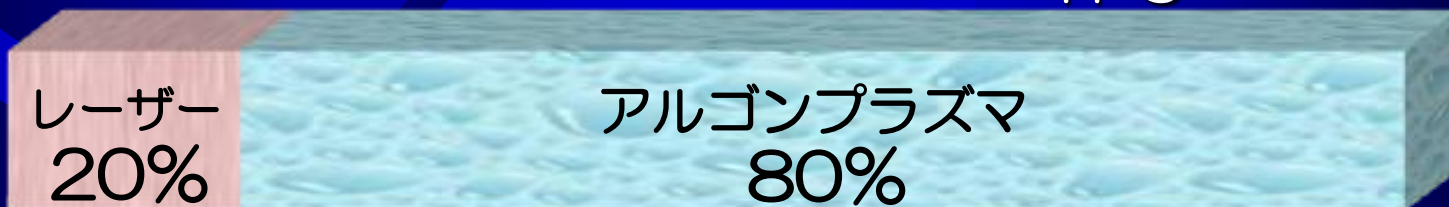
■どちらが効果がありましたか？

n=7



■どちらが効果が持続しましたか？

n=6



手術療法の選択について

- ① 免疫療法や薬物療法に抵抗する難治性アレルギー症例には手術療法を考慮。
- ② 手術療法は、免疫療法や薬物療法に比べ肉体的負担はあるが、長期的にみて時間的、経済的負担が少ない。



通院に伴う時間的負担が大きなサラリーマンには、長期間通院や投薬を行わずに症状を制御できる手術療法が選択されてもよいだろう。



総括

手術療法は、耳鼻咽喉科医にとって、内科や小児科との差別化を言う点でも重要な治療手段。

アレルギー性鼻炎の治療に際し耳鼻咽喉科医は、
薬物治療、手術治療、免疫療法を組み合わせ、
オーダーメイドの治療ができる。



患者の利益

